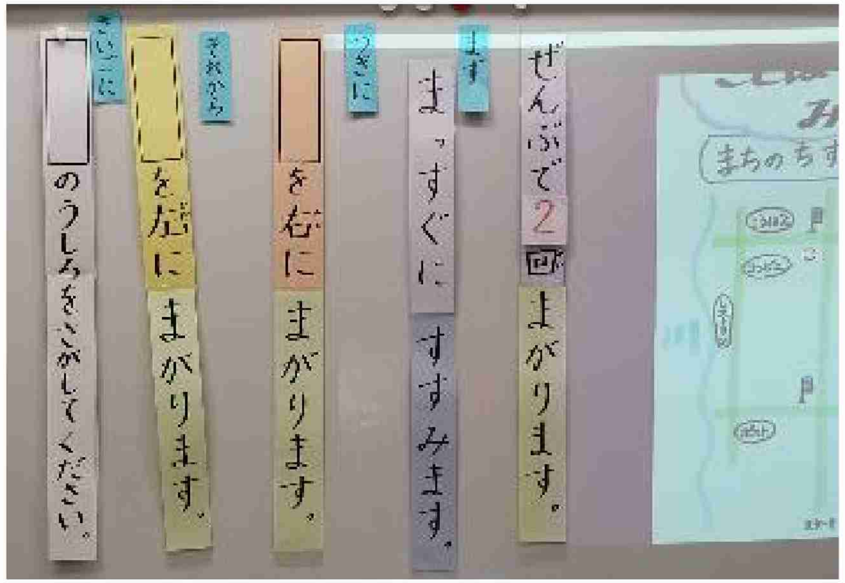
文部科学省委託
「日本語指導が必要な児童生徒等の教育支援基盤整備事業（動画コンテンツ開発）」

研修用　動画コンテンツ　４

日本語指導の方法　２

技能別日本語・「JSLカリキュラム」プログラム



本研修（動画視聴）のねらい

　子供一人一人の多様な実態に応じて日本語のコース設計をすることの重要性を理解し、日本語の中・後期段階の指導として、技能別日本語、日本語と教科の統合学習プログラムの授業の設計と指導方法の基礎を知る

キーワード

・多様性に応じた指導
・個別の指導計画の作成　　目標と内容（5つのプログラム）
　サバイバル日本語／日本語基礎／技能別日本語／「JSLカリキュラム」
　／教科の補習／母語　＋母文化、キャリア教育、多文化共生教育
・中期日本語指導
　技能別日本語（読み・書き中心）
　文部科学省「JSLカリキュラム」（内容（教科等）と日本語の統合学習

1　多様性に応じた指導
ーコース設計：個別の指導計画をつくるー

子供たちの背景の多様性（3人のケース）

〇：流暢
△：支援が必要
×：苦手としている

アン（7歳）

日本生まれ
幼保経験なし
話す：△
読み書き：0から
母語：スペイン語
話す〇

ロイ（11歳）

8歳来日（3年目）
話す：〇
読み書き：△
教科：×
母語：ネパール語
話す〇

テンテン（14歳）

14歳来日（0ヶ月）
日本語：0から
教科：〇
母語：中国語
年齢相当

子供の実態把握

A　文化間移動

来日年齢、滞日期間、

来日の理由、将来の居住予定

B　発達状況と環境

現在の年齢と発達状況

背景言語・文化（漢字圏かどうかを含む）

家庭環境（使用言語、保護者の言語（日本語・母語の力）

C　教科の力と学習経験

学習経験（出身国・地域のカリキュラム）

学力と在籍学級での学習参加状況

D　言語の力と学習経験

日本語の力と母語の力　（DLA等を利用）

・4技能　聞く・話す　読む・書く

・生活言語能力　学習言語能力

多面的に！
複数の目で！
定期的に！

日本語指導の目標と内容（5つのプログラム）

3つの目標（全体的目標）

（1）学校・社会生活における
コミュニケーションのための
日本語の力を身につける
≒生活言語能力

（2）教科等の学習に参加するための
日本語の力を高める
≒学習言語能力

（3）アイデンティティ形成・自己実現に
向けてことばを使う力を育む

内容（→プログラム化）

A　生活場面の語彙・表現、会話

B　日本語の発音・文字・文法など
の基礎的知識・技能

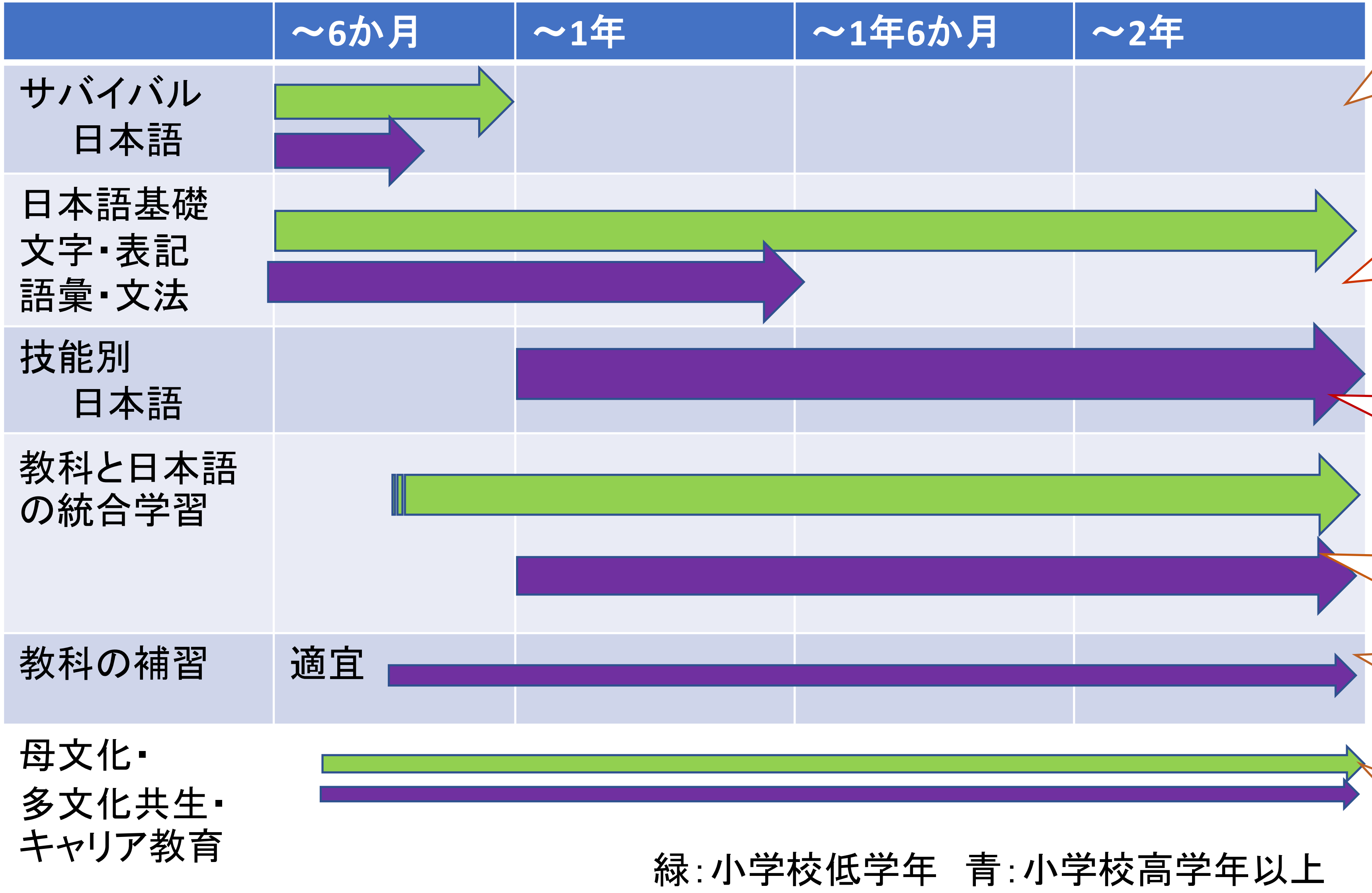
C　文章の読み・書きの技能
まとまった内容を聞く・話す技能

D　教科等の学習で必要な思考を
支える日本語

E　社会的活動に参加するための
日本語

日本語のコース設計－プログラムを組み合わせて－

⇒「個別の指導計画」の作成



子どもたちの生活・学習場面に関わらせ課題遂行型(タスク)活動で日本語を使って行動できるように

この後の漢字語彙、文法の学習は、技能別の学習に組み込んで

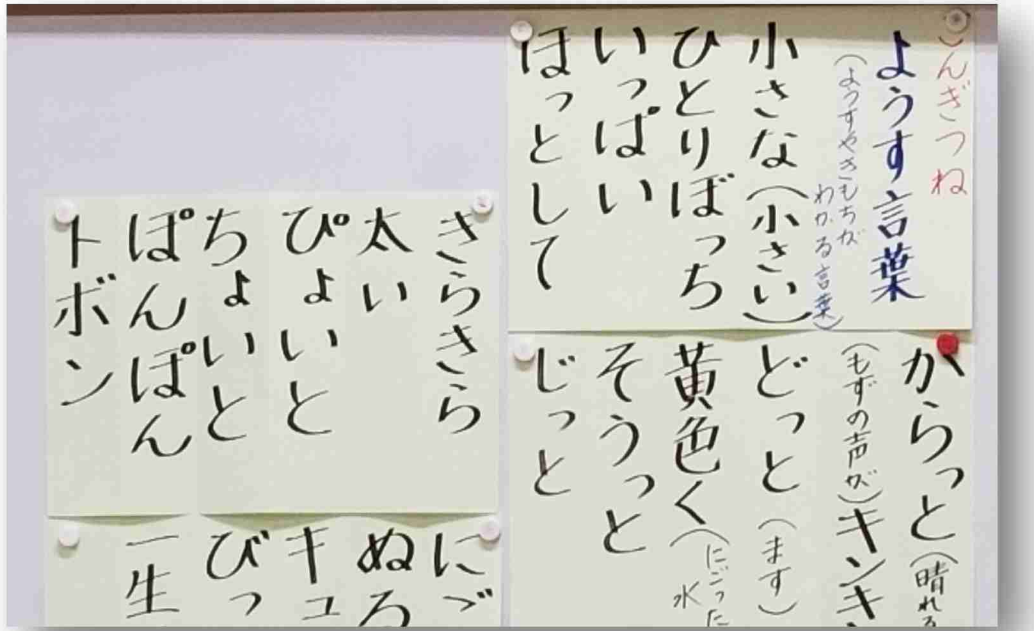
1センテンスではなく、文章・談話の学習

教科等の内容と日本語の統合学習の考え方で実施(文科省開発「JSLカリキュラム」)

在籍学級と相談して、母語支援が可能であれば母語で

学級・学年・学校の総合・学活等の学習に関連づけて

２　中期以降の日本語指導の考え方



中期以降の日本語指導の中心課題
＝教科等の学習に参加するための日本語の力を育む

在籍学級での教科の学習

取り出し指導での
日本語の学習

取り出し指導では、
まずは日本語・・・

来日直後から、在籍
学級では教科学習

日本語の力の発達（イメージ）

生活言語能力の発達
言語以外の情報を利用しながら、
対面の日常的な会話ができるようにな
る。

学習言語能力の発達
学習場面で日本語で思考する活動ができる
ようになる。

できるだけ早く、学習言語能力や教科の学び方を身につけるための指導が必要
↓
文章の読み書きの力を高める指導：技能別日本語プログラム
教科の力と日本語の力の両方を高める教育：内容（教科）と日本語の統合学習

中期指導で必要な見取りと配慮

「おしゃべりはできるけれど、教科等の学習内容が理解できない」

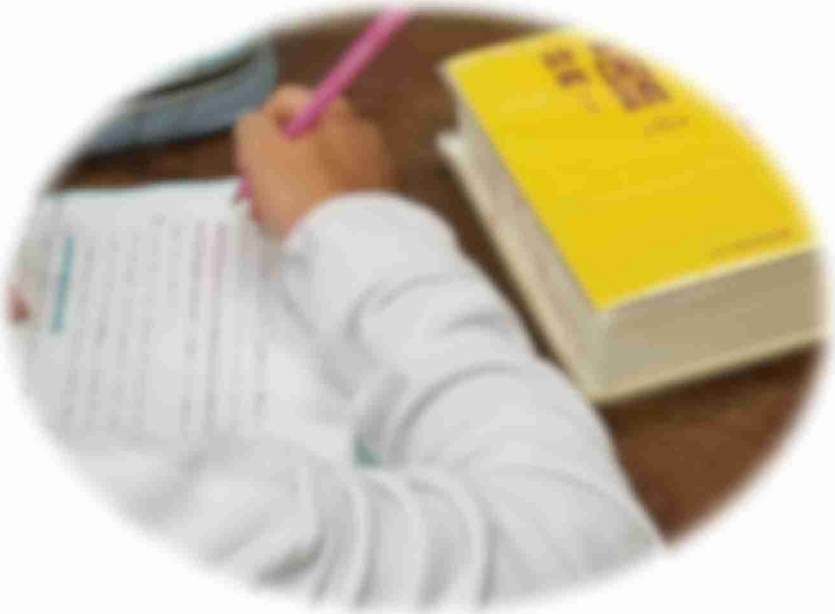
子供の言語の力　・生活言語能力と学習言語能力
（学習言語能力の発達には5～7年かかる）
・リテラシー（読む・書く力）の発達
・思考力、概念形成　・・・母語の力＋日本語の力

子供の教科の力　これまでの学習経験、各教科に関する知識・技能
（国によるカリキュラムの違い）

教授／学習スタイル　日本の学校教育とは異なるスタイル

来日３年目のロイさん、友達とのおしゃべりでは日本語で困っている様子は見られないのに教科の勉強ができない。・・・日本語以外の問題？
アンさんのような幼少期来日／日本生まれの児童生徒の中にも同様のケースがある。

３　日本語指導の方法（中期段階）
技能別日本語プログラム



技能別日本語プログラム1　「読む」活動例1

学習項目の選び方：概要を掴む、必要な情報を取る、予測させて読む、精読させる等、
どのような読み方（読解ストラテジー）を身につけさせたいか明確にする。
児童生徒の興味・関心のある内容、ジャンルから読む文章を選定する。
教え方：必ず実際に文章を読む活動の前に、内容や文章を読むために必要な情報について取り上げる（事前活動）、また、読みの活動の後には、日本語の語彙・表現、文法などを確認する学習（事後活動）を行う。

学習項目：「見学のしおり―大事なことを読み取る」
活動（指導の流れ）

1	①社会科見学について話し合う
2	②しおりから集合時間、見学場所、持ち物を読み取る ③ワークシートに、大事なことをまとめる。
3	④社会科見学に関する語彙・表現、約束を伝える表現を確認する

アンさん（3か月目）：実際のしおりを、日本語の力に合わせてリライト（書き換え）して、時間、場所、持ち物の読み取りを中心にする。
ロイさん（2か月目）：実際のしおりの読み取りとし、見学先の情報や目的も読み取る。

留意点：必要な情報のみを読み取る活動とする。
読み取りに必要な語彙や表現をカードにして示し、それを手がかりに読み取らせる。
ワークシートは、日程・行程表等にし、情報を整理して記入するタイプのものにする。

技能別日本語プログラム2「読む」活動例2

学習項目 「物語を予想して読む」

活動（指導の流れ）

1	①物語の挿絵を見て、何の絵か、誰が登場するか、どんな物語か想像する。教師は登場人物の挿絵等を示して、イメージづくりを支援する。
2	②絵を見ながら、指導者の音読を聞く。 ③途中で、物語の展開を予想してメモをする。 ④読み終わったら、自分の予想と実際の物語の異同について話し合う。
3	⑤物語に出てくる新しい語彙・表現を確認する。 ⑥その表現を使って、物語の続きを書く。

留意点　・事前の活動①で、登場人物名や重要なことばを板書したり、カードで示したりし、②～③の読みで参照できるようにする。③の活動では、予想した理由について話し合い、読みを深める。

アンさん（3か月目～）: 図書室で本人が気に入った絵本で実施し楽しむことを重視。予想活動は口頭でよい。物語の続きを簡単に書かせる。

ロイさん（1か月目～）：国語科の物語題材を取り上げ、在籍学級の学習の前に実施すれば、在籍学級での学習への参加を促せる。

テンテンさん（6か月目～）：中学生であることを考慮して、読む教材を選択する。成人向けの日本語の読解教材（中級）等から適宜選択してもよい。

＜その他の活動の工夫＞

- ○題材の挿絵・写真と文章をマッチングする
- ○段落を並べ替えて文章を完成する
- ○文章の一部（段落など）に入る文章を選ぶ
- ○2つの文章を読んで比較する
- ○音読に合わせて演じる/ペープサートを操作

技能別日本語プログラム3 「書く」 活動例1

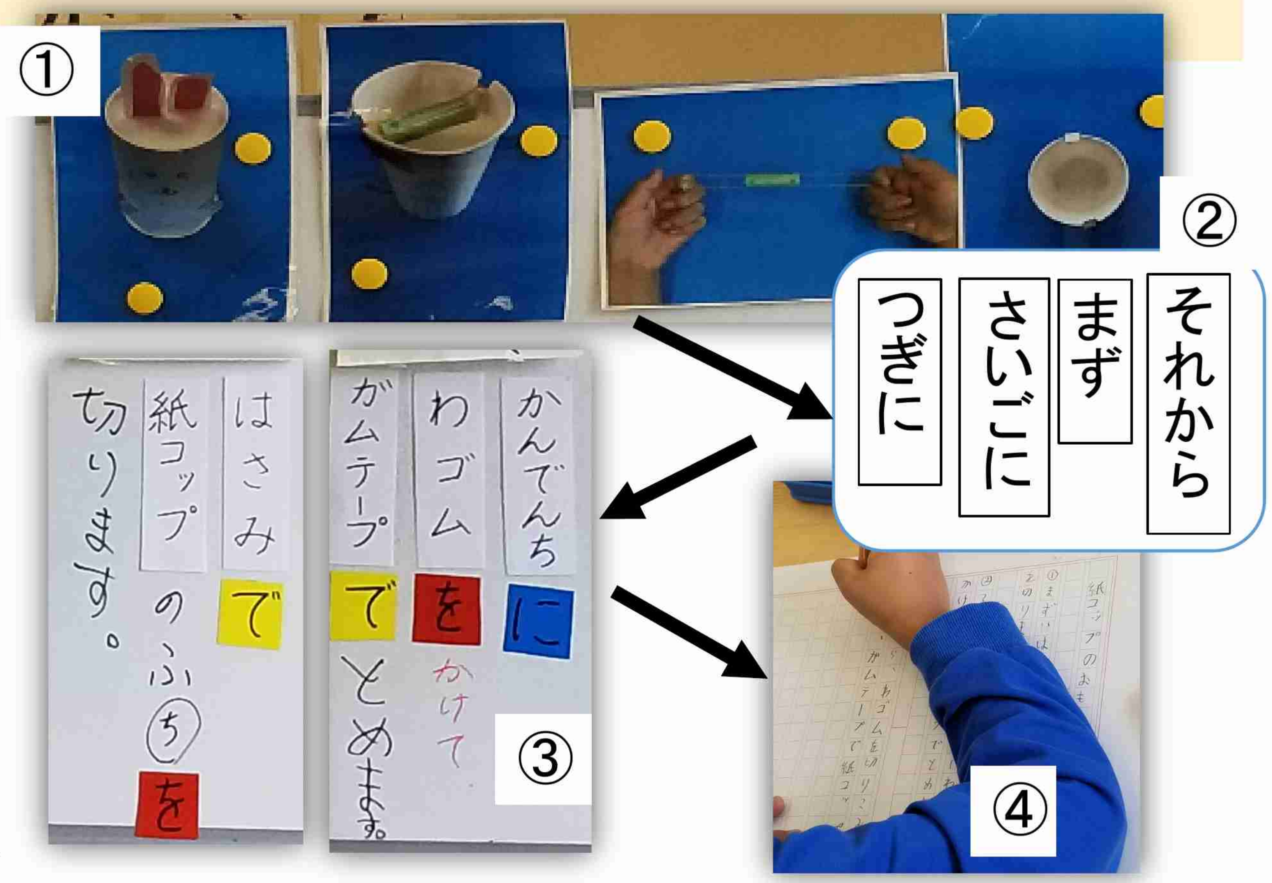
学習項目の選び方:学習する文章ジャンルを設定し、そのジャンルに適した語彙・表現、文と文のつなぎ方、文章構成や段落の作り方、修辞的なスキルの中から、子供の日本語の力、文章を書く力(母語の力も含む)に応じて、選択する。

教え方:子供の興味関心や印象に残っている事柄から、テーマを選定する。モデル文を紹介し、どのような文章を書くのかイメージを持たせる。書く内容を構想するための活動を丁寧に行う。読み手を意識させて作文を書くように指導する。

学習項目「おもちゃの作り方」を説明する(作文)

活動(指導の流れ)

1	おもちゃをつくる(作り方の写真をとる) 材料・道具カードで語彙をインプットして
2	工夫しながら楽しく遊ぶ。やりとりしながら、遊び方に関する表現をインプット
3	おもちゃの作り方を作文する。経験を①写真の並べ替え、②接続表現の選択、③語彙・助詞カードを利用して口頭作文(先生が板書) ④原稿用紙に書く



留意点 おもちゃを作る楽しさ、作ったおもちゃで遊ぶ喜びを経験させてください。その経験時に、語彙・表現を繰り返し聞かせ、問いかけてインプットします。 できれば、作り方を教える相手を想定して、活動をしましょう。

技能別日本語プログラム4　「書く」活動例2

学習項目　「図書紹介」・・・　図書委員として、本の魅力を文章で表現し、下学年の生徒に推薦する

活動　（指導の流れ）

1	①図書紹介の文章（モデル文）を読んで、読みたい本を選ぶ。②読みたいと思った理由を、紹介文から抜き出す活動を通して、紹介文の構成を確認する。
2	③図書委員として、誰にどの本を紹介したいか決める。④その本の魅力をカードに書き出す。
3	⑤ワークシート（モデル文の構成と表現）を利用して④のカードをもとに文を書く。⑥紹介文を書く。
4	⑦昼休みに、図書委員として下学年のクラスで本を紹介する。

留意点：文章のジャンルによって、構成に特徴があります。
紹介文の他にも、意見文、物語文、説明文等、構成のパターンと、内容・読み手に応じた表現を選択して提示しましょう。

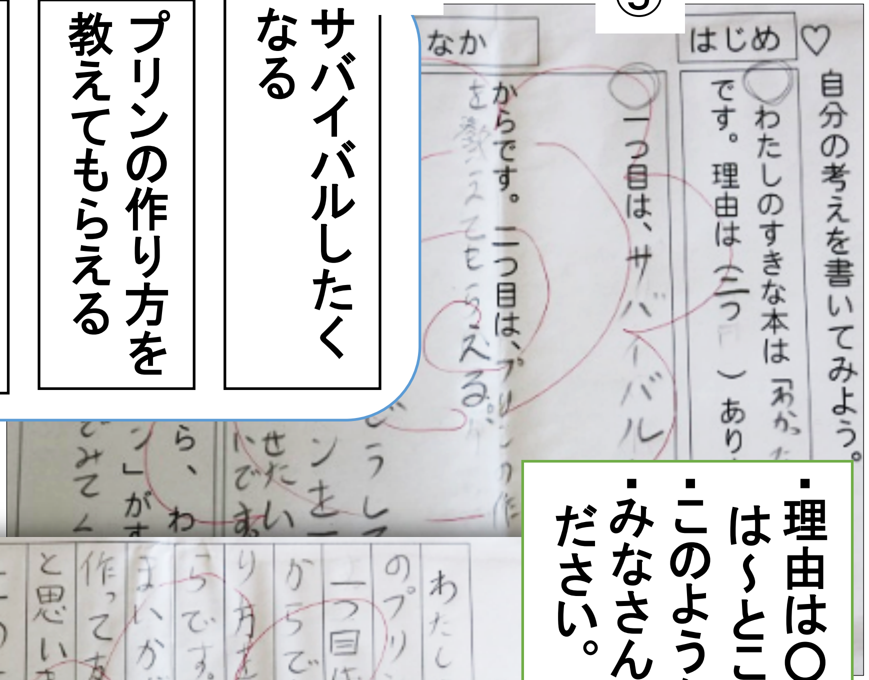
④

サバイバルしたくなる

プリンの作り方を教えてもらえる

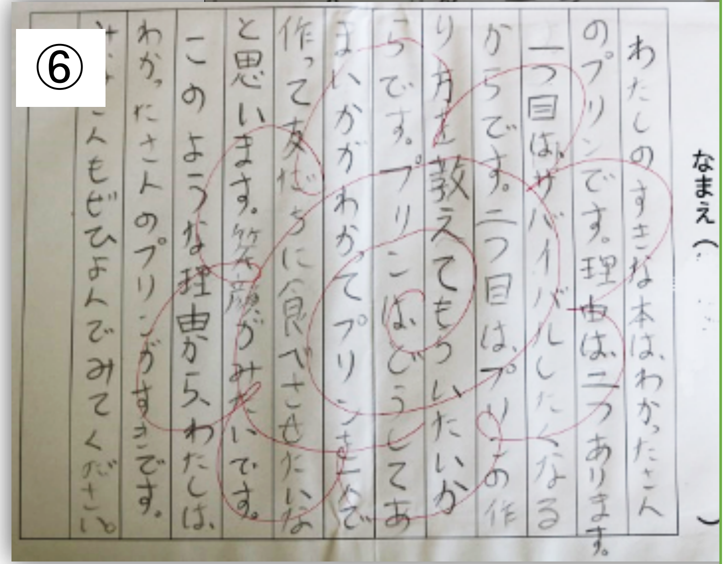
プリンがどうして甘いかわかる

⑤



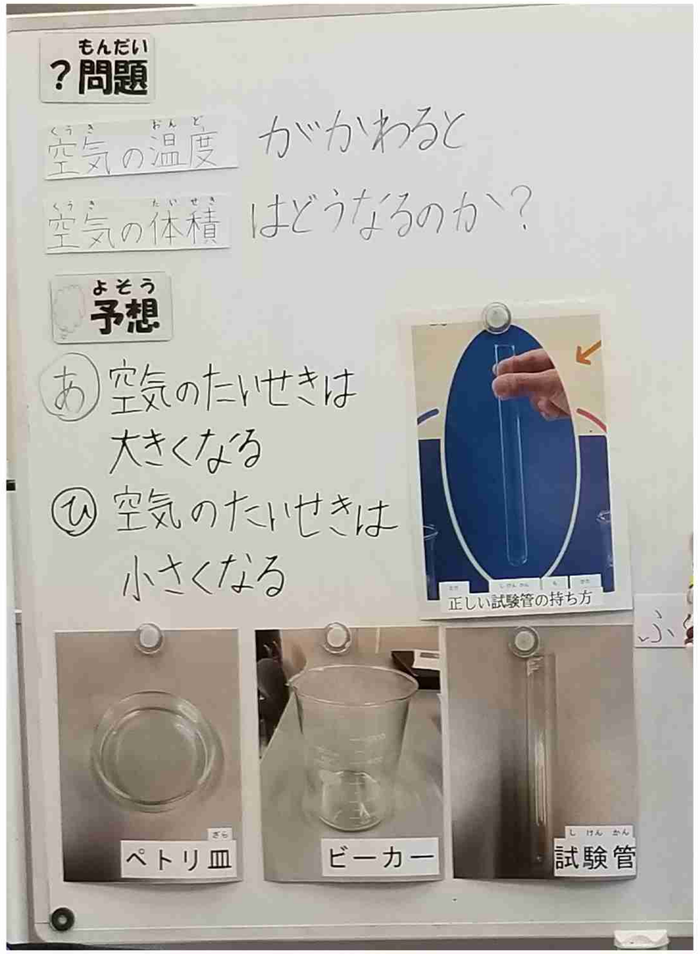
・理由は〇つあります。一つ目は～ところです。
・このような理由から～
・みなさんもぜひ読んでみてください。

⑥

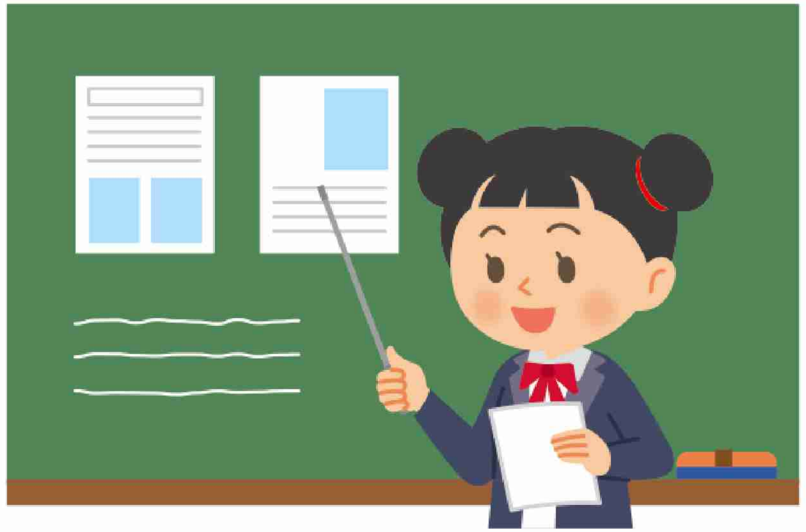


4　日本語指導の方法（中期段階）「JSLカリキュラム」

内容（教科等）と日本語の統合学習プログラム



理科と日本語の統合学習
「ものの温度と体積」



文部科学省「JSLカリキュラム」 １
内容（教科等）と日本語の統合学習プログラム

JSL：Japanese as a Second Language「第2言語としての日本語」

日本社会・学校で生活し、日本語でコミュニケーションし、その他の目的（学校で教育を受ける等）のための日本語

田中望（1988）『日本語教育の方法』大修館書店

文科省「JSLカリキュラム」

学校での学びに日本を使って参加できるように支援することを目指す

内容（教科）と日本語の統合学習

「JSLカリキュラム」のねらい

教室空間で、学習活動に、仲間と共に参加するための日本語の力（＝「学ぶ力」）を育むこと。

内容からことばを切り離さずに学ぶ

- 具体物・視覚情報・体験活動等による支え
- 探究活動で思考と理解を促す
- 活動を通して理解したことを日本語で表わす

文法・文型・単語等の意味に焦点化するのではなく、「必要な情報を見つける・考えを整理する・仲間と議論する・自分の考えを発表する」といった活動を日本語でできるようになること＝「日本語で学ぶ力」

佐藤郡衛・齋藤ひろみ・髙木光太郎『小学校JSLカリキュラム「解説」』スリーエーネットワーク

文部科学省「JSLカリキュラム」 ２
教科のことば（教科の学習で用いられることば）

生活のことばと教科のことば

（１）教科の用語：教科の概念・事物・現象を表わす語（ヘクトパスカル・等圧線・大気）

（２）日常生活とは異なる使い方：点と点を結ぶ、文を結ぶ、条約を結ぶ

（３）話しことばではなく書きことば：～に従って、～によれば／観測する、配置する

社会科の場合

憲法に基づき、1890年に初めて選挙が行われた。選挙権は、25歳以上の男性で、一定の金額以上の税金を納めた人に与えられた。この選挙で国民から選ばれた人々が参加して、第一回の国会が開かれた。

（6年生社会科　教科書でよく見る表現例）

（１）教科の用語：憲法、国会、選挙、税金、国民

（２）〇〇権をもつ

（３）～に基づいた、一定の金額

・受け身形式は　４回
行われ、選ばれ、開かれ、限られ

・長く複雑な構造の文

3行目：（名詞修飾句）人に与えられた。
4行目：（名詞修飾句）人々が参加して、～。

「JSLカリキュラム」3 教科指向型実践例1

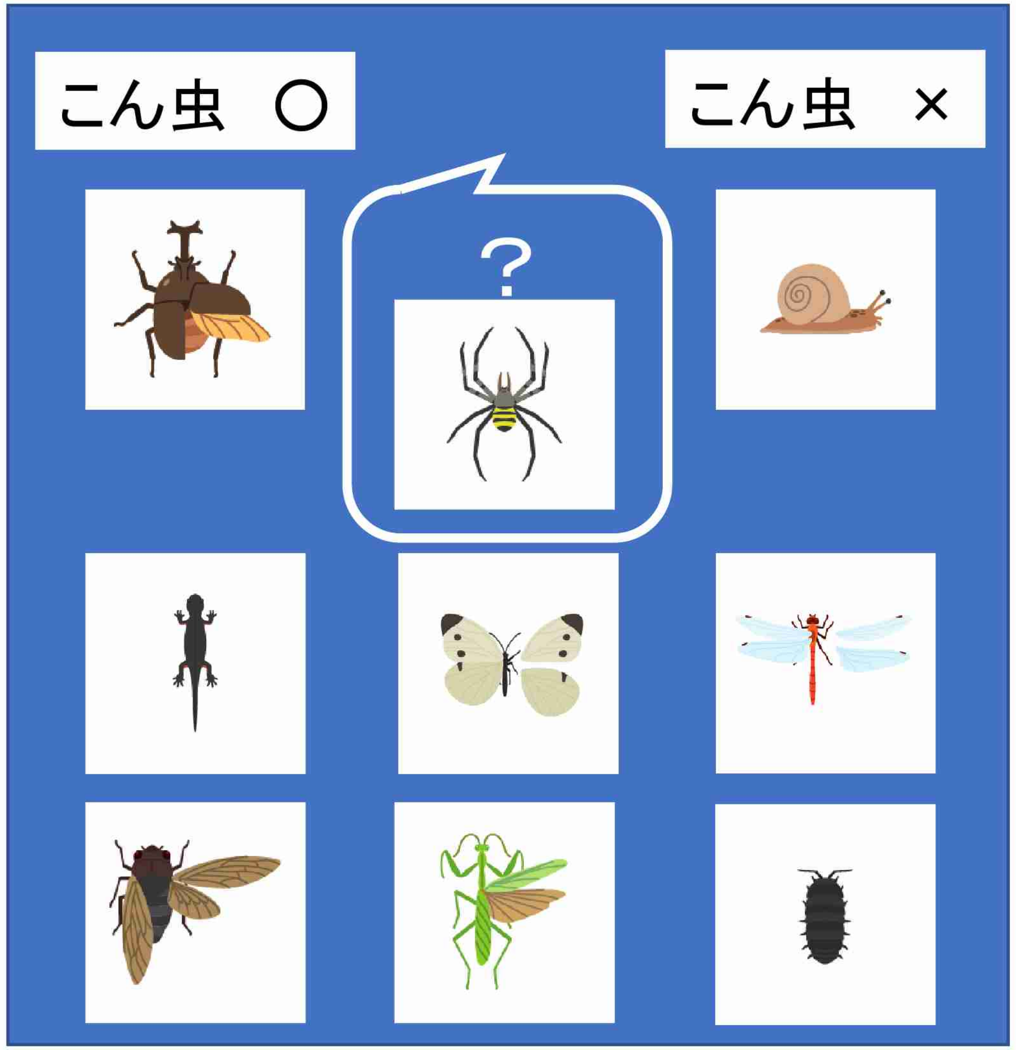
単元 「理科：こん虫をしらべよう」（東京書籍）

教科の目標：こん虫の体を比較しながら調べ、昆虫の特徴を理解する。

日本語の目標：「こん虫・からだ・はら・むね」を使って、昆虫ゲームの結果や昆虫の特徴を発表することができる。

活動展開

1	①いろいろな虫の体を調べ、特徴別に分類する
2	②こん虫の特徴を確認する。 ③「こん虫さがそうゲーム」をしながらやりとりをする
3	④昆虫の特徴をまとめ、発表する



支援の工夫

アンさん：3年になっても支援が必要であれば

○「こん虫をさがそう」ゲームでは、昆虫の体の構造に着目させるように、問いかける。

○ゲーム中の**やり取り**で、目標とする表現を繰り返し聞かせ・言わせて運用できるようにする。

○発表モデルを用意してそのパターンを利用させ、考えを理由と判断で構成して発表できるようにする。

＜発表のモデル＞

A （　　）は、こん虫ですか。
　はい、（　　）は、こん虫です。
　いいえ、（　　）は、こん虫ではありません。

B （　　）は、足が（　　）本です。だから、こん虫です。
　（　　）は、あたま、むね、はらからできています。
　だから、（　　　　　　　　　　）。

「JSLカリキュラム」4　教科指向型実践例2

テンテンさん(1年～):できれば、日本語基礎プログラムで 「～のようだ」「～ではないか」「～に表れる」等表現を学習した後で実施する。
本人が心動かされる作品の鑑賞文を書くようにする。

中学校「国語科」 鑑賞文を書く
根拠を明確にして魅力を伝えよう

教科の目標:
作品を鑑賞し、観点に沿ってその魅力を表現することができる。
根拠が明確で作品の魅力が伝わる鑑賞文を書くことができる。

日本語の目標:
- 観点をもって作品の特徴を捉え、「～のようだ」「～ではないか」「～に表れている」等の表現で感じたことや想像したことを述べ、「心に響く」「胸に迫る」「興味を引かれる」等の表現で魅力を表わすことができる。
- 「～の魅力は～ところにある」 「～こと(点)から」等を使って、根拠を明確にした鑑賞文を書くことができる。

活動展開

1	①作品について感想を話し合う。(教師は問いかけで観点や表現を示す) ②感想を書き出させ、作品の特徴、感じたこと・想像したことなどに整理する。
2	③鑑賞文として、②をどの順に書くことで作品の魅力が伝わるか話し合う。 ④書き出しやまとめ方を検討した後、ワークシートを利用して鑑賞文を書く。
3	鑑賞文を読み合い、友だちが感じた魅力とその根拠を考える。

評価観点
- 作品を鑑賞し、観点に沿って魅力を表現することができたか。
- 根拠を明確にして魅力が伝わる文章が書けたか。

「JSLカリキュラム」5　教科指向型実践例2　ワークシート

中学校「国語科」　根拠を明確にして魅力を伝えよう－鑑賞文を書く－

ワークシートの工夫

①鑑賞文の構成が意識できるように、構成について話し合ったことを記入（マーカーの箇所）。
全体構成：魅力、具体的な説明（音・色彩）、まとめ

②構成に対応させて、根拠や魅力を伝える表現を示し、選んで利用できるようにする（二重線枠）。

③必要に応じて母語で補足（生徒に調べさせる）。

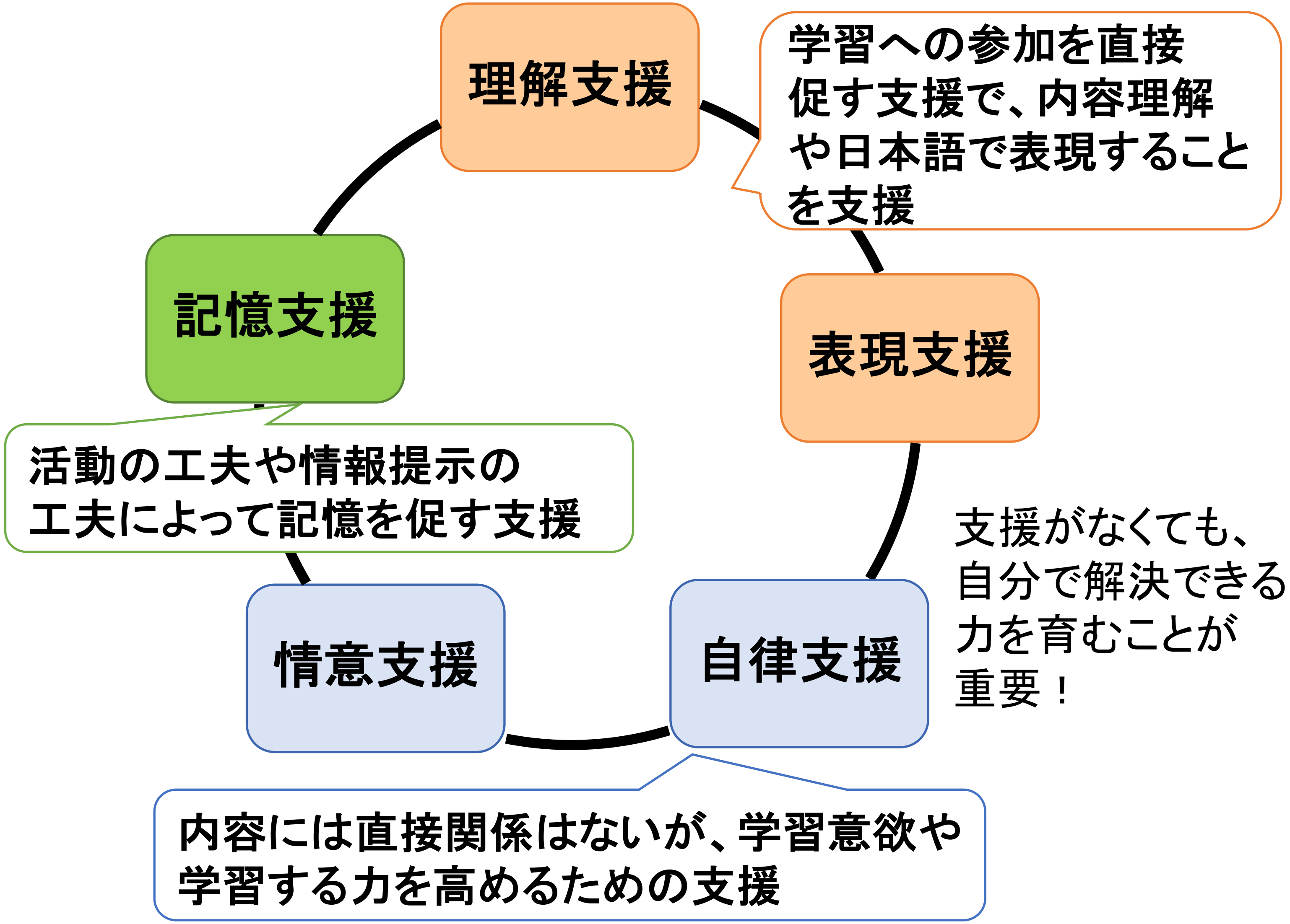
鑑賞文－根拠を明確にして魅力をつたえよう－

この作品の魅力はどんなところですか。何を感じ、何を想像しましたか。
どんな音が聞こえてきそうですか。色彩にはどんな特徴がありますか。

（魅力）	（具体的な説明）（音）	（具体的な説明）（色彩）	（まとめ）
～の魅力は、～ところにある。	根拠を示す表現 ・それは、～に表れている。 ・～を見て欲しい。 ・～ことから～。 ・なぜなら～。 想像を表す表現 ・～と想像できる ・～を示しているのだろう。 ・～の音が聞こえてくるようだ。 ・～ではないだろうか。 ・～は～だろうか。	感じたことを表す表現 ・魅力的だ ・興味を引かれる ・目を奪われる ・印象的だ ・巧みだ	このように～の魅力は、～である。

必要に応じてルビをふる。
母語で意味を調べて、伝えたいことを表すのに適したことばを使うように促す。

「JSLカリキュラム」6
学習参加のための5つの支援

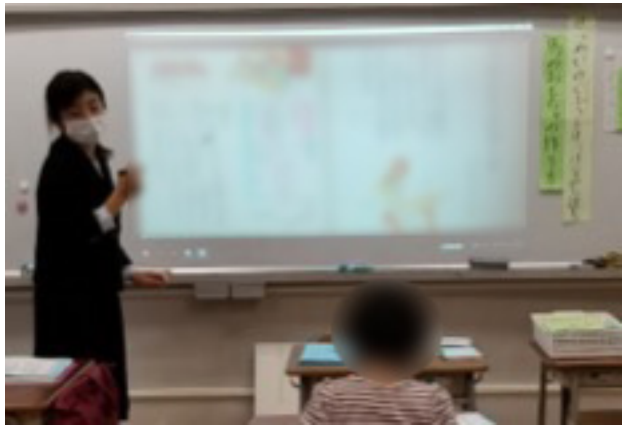


理解支援の例
- 音と文字と意味を一緒に提示
- 操作や体験を通して
- 具体物・絵・写真で視覚化して
- 既有知識に関連付けて
- 知っていることばに言い換えて
- やりとりで理解の確認しながら

表現支援の例
- 語彙、文型、話型を提示して
- 多様な方法（絵図、写真、動作）で表現させて日本語を教える
- 場や目的に適したパフォーマンスモデルを見せて
- やりとり、図やカード等で内容を組み立ててから表現へ

「JSLカリキュラム」7　授業実践例（動画）

国語科「馬のおもちゃの作り方」（光村図書）×日本語



活動展開

1　投影した教科書に、書き込みながら、
　学習した段落の内容を確認　（上の写真）

2　読み取り活動
　学習する部分の挿絵を見ながら、
　空き箱を動かして理解（動画）
　児童：～横にして、おなかの上にのせます。
　教師：横ってこう？

「JSLカリキュラム」8　授業実践例（動画）

生活科「きれいにさいてね　わたしのはな」（教育出版）×日本語

活動展開

１　写真を見ながら、育ててきたあさがおのそだちを振り返る（左のボードで）
「そのつぎに、つるがのびました。つぎにつぼみができました。～」

２　あさがおへの気持ちを思い出す。
（左のボードの吹き出し）

３　役割を決めて演じる
（動画）
ナレーター役
あさがお役
子供役

「JSLカリキュラム」9　授業づくりの要点

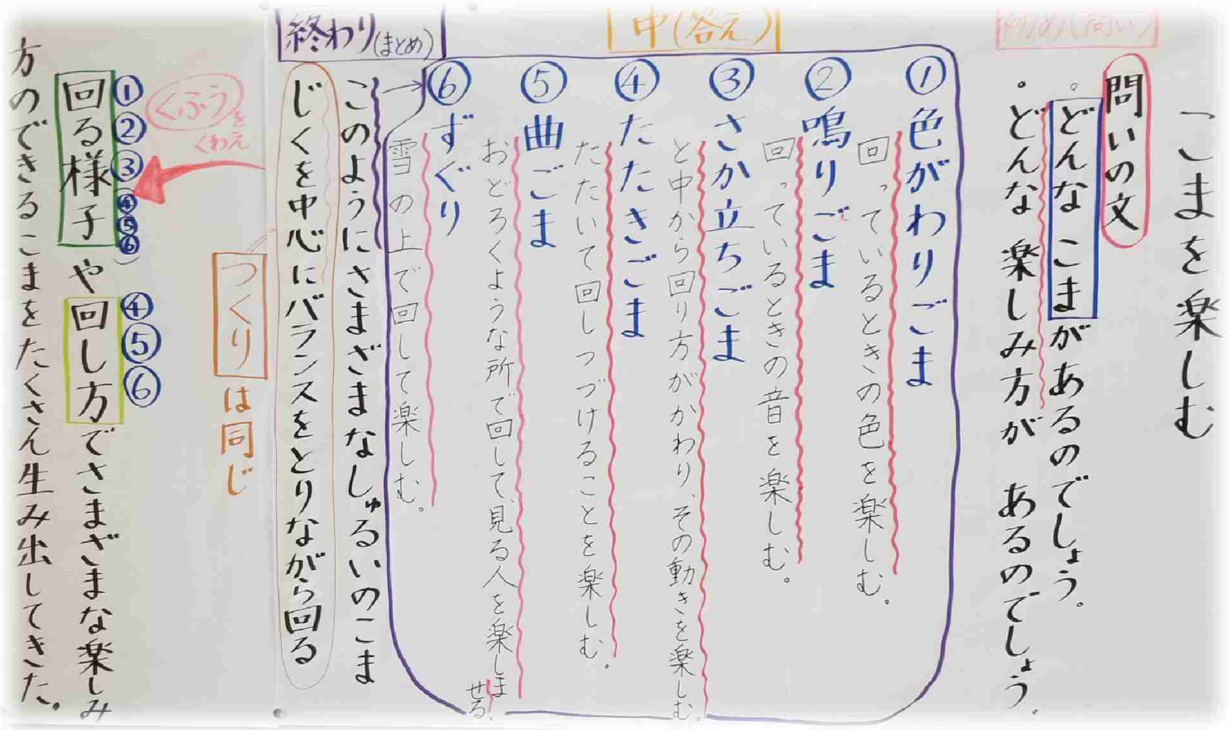
①学習経験/学力等から内容を決定、内容理解を優先して授業を設計
②2つの目標(教科等の目標と日本語の目標)を設定
③授業展開
④活動毎に
日本語の表現を設定

話しことば中心
→　書きことば
(一方向で話す・書く)

⑤学習活動に参加するための支援の工夫

授業の展開	日本語の表現	支援・教材
既習知識・経験を活性化し、日本語で確認し、課題を把握する。	活動参加を促す「教師の働きかけ」と「子供の応答」の日本語表現を具体的に想定する。	各活動への参加を促す支援と教材の工夫
課題について、操作・観察・調べる等の活動を通して探究する。	観察時(話しことば・やりとりで) T:AとBはどこが違う? S:Aは～。でもBは～。 結果について話し合う T:どうして違うのかなあ? S:～だから。	理解支援 表現支援 記憶支援 + 情意支援 + 自律支援
気づき、分かったことを日本語で表現し他者に伝える。	観察をまとめる(書きことばで) S:～を調べました。Aは～けれども、Bは～でした。～が違うからです。	

５　中期段階の日本語指導の留意点

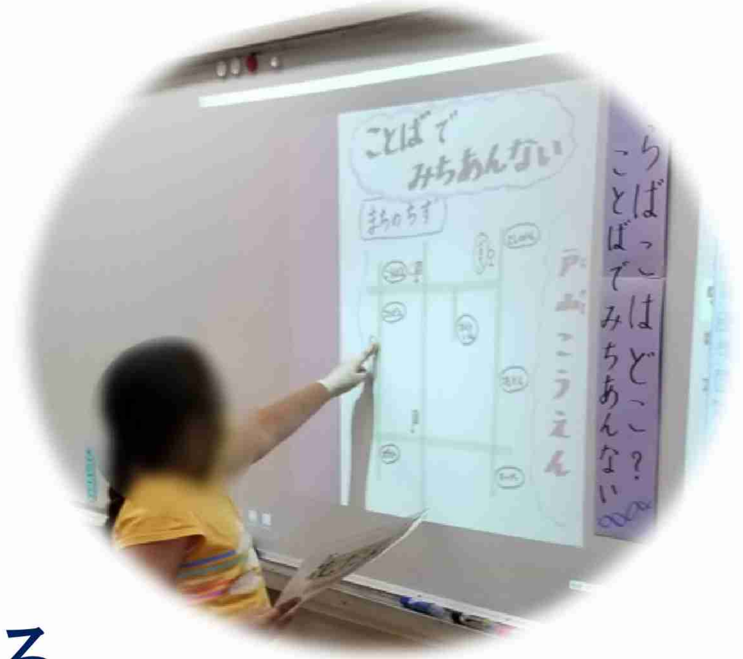


経験・既有の知識を生かし、学習の連続性を保障する

①児童生徒の経験や既有知識を生かす

日本語では困難があっても、母国での経験や学習によって育んだ知識・技能をもつ。それを、教科等の学習で活かせるように、内容・活動を工夫する。

★日本での経験不足や学習スタイルの違いにより理解も学習参加も困難な場合がある。その場合は、経験を補う活動が必要。



②操作・体験活動、絵図等による理解・表現を優先する

日本語によらなくても理解・表現できる活動を織り込む。
その後、日本語を示して、日本語で理解し表現できるように支援する。

③児童生徒が学び合う場面をつくる

「教師が教える」だけではなく、児童生徒が互いに気づきを伝え合い、それをもとに考えられる場面をつくる。

学習の成果を活かせる学びの場と環境をつくる

①効力感を得られる場を想定して授業を設計する

・取り出し指導の「JSLカリキュラム」理科で実験を経験する
→在籍学級でも実験に参加できる。

・音読劇の練習　→　学習発表会で発表

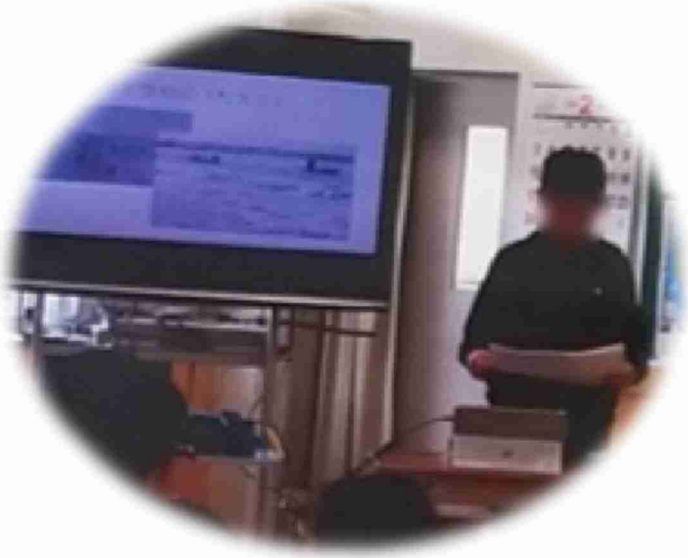
・母国の地理・歴史について、社会科の授業で発表する。

②ICT等の活用で、自学ができ、個性を活かせるようにする

・自分のペースで学習する時間を設ける。

・視覚的効果や音声により理解を促す。

・タブレット等で資料等を再構成し、自分の経験や考えを伝える。



③学校内外で学習したことを活かす場をつくる

・委員会活動で日本語を使って役割を果たせるよう配慮する。

・地域の支援教室等と連絡をとり、学習した内容について話題にしてもらう。

関連Webサイト

文部科学省　　CLARINETへようこそ

・「外国人児童生徒受入れの手引き」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/1304668.htm

・「学校教育におけるJSLカリキュラムの開発について」（最終報告）小学校編

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/001/008.htm

・「学校教育におけるJSLカリキュラム（中学校編）」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/001/011.htm

文部科学省委託
「日本語指導が必要な児童生徒等の教育支援基盤整備事業（動画コンテンツ開発）」

研修用動画コンテンツ ４
日本語指導の方法2

著作権者:　文部科学省
担当講師:　齋藤ひろみ（東京学芸大学）
今澤　悌（甲府市立大国小学校）
写真・動画提供:　東京都新宿区立大久保小学校　東京都福生市立福生第一小学校
企画構成:　日本語指導が必要な児童生徒等の教育支援動画コンテンツ開発委員会
制作:　毎日映画社
発行:　2021年3月31日

文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN